令和５年度

学校評価

報告書

学校関係者評価・自己評価

令和６年４月１８日

高松市医師会看護専門学校　専門課程看護科

目　　次

令和５年度学校評価【学校関係者評価】・・・・・・・・　P1

令和５年度学校評価【自己評価】

１　教育理念、目的　・・・・・・・・・・・・・・・　P2

２　令和５年度の教育目標(重点目標)と計画　・・・　P2

３　自己評価結果（総括）　・・・・・・・・・・・・　P3

４　項目別自己評価結果【大項目ごとのまとめ】・・　P4～P6

令和６年度の教育目標と計画・・・・・・・・・・・・　P7

資料掲載の評価表は「香川県専修学校各種学校連合会」による学校評価モデルに基づいています。
自己評価における評価は以下の並びになっています。

１．教育理念、目的を掲げる
２．当該年度の教育目標と計画を掲げる
３．評価総括(目標達成状況と今後の課題・改善方法)
４．項目別評価結果（大項目）
５．項目別評価結果（小項目）

令和5年度学校評価 【学校関係者評価】

評価	A

目標達成状況	資格試験に向けて懇切丁寧な指導が行われたが、資格試験の全員合格には至らなかった。それまでの科目試験結果において成績不良の学生が増加している。 挨拶や言葉遣いは教員自らも留意し行っている。学生への働きかけも出来ていた。今後もより良い人間関係が構築できるように継続した取組みが必要である。 香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）に参加した。机の下に隠れたり、身をかがめる等の安全確保行動を実際に実施したことで、危機管理について少し身近に感じることが出来ていたようである。 教員は学生へ積極的な働きかけを行い、信頼関係が構築できている。卒業生とは学生募集において連携が図られ、情報交換も行えている。 連絡・報告・相談については、必要に応じ教員・学生ともに行えていた。一部報告等が遅れることもあり、今後も指導していく必要がある。 新カリキュラムを実施したが、大きな問題はなく経過したが、専任教員の担当教科目に関しての授業評価の実施が出来なかった。 学生募集を積極的に行ったが、学生増にはつながらなかった。 ご意見箱を設置し、学生の意見も参考にしながら、魅力的な学校づくりに努めた。 地域や地域住民等との交流に関しては、本年度実施できなかった。
今後の課題・改善方法	資格試験全員合格を目指すこと。 学習の全体指導と個別指導を行っていく。 学生のモチベーション維持と健康に留意し、１人１人と向き合っていく。 挨拶については出来てきているため、今後定着するように指導していく。 言葉遣いに関しては、一部気になる部分がみられる為、今後も指導継続していく。 今年度参加したシェイクアウトが次年度以降も開催されれば、積極的に参加する。 その際に学生の安全確保行動を確認し、危機管理体制の見直しを行う。 報告・連絡・相談の重要性を説明し、正確で明瞭な方法を指導していく。 新カリキュラムを実施し、PDCAサイクルを実施しながら評価・修正を行う。 専任教員は担当教科の授業評価を行い、授業の工夫をして学習効果をあげる 新聞広告等での広報も検討し、受験者確保に努力する。 職員共々広く地域や地域住民等との交流が出来るように、実施できるような内容を洗い出す。 ご意見箱を継続し、学生の意見を聞きながら今後も魅力的な学校づくりに取り組む。

令和5年度学校評価 【自己評価】

1 教育理念、目的

教 育 理 念	生命の尊厳と人間尊重を基本理念として、人と社会を愛する豊かな人間性を育み、地域住民の健康生活に貢献できる有能な看護実践者を育成します。
教 育 目 的	生命の尊厳と人間尊重を基盤とした豊かな人格と教養を身に付け、社会の要請に応えられる看護の専門職業人として基礎的知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の一員として科学的根拠に基づいた安全な看護を実践する看護師・准看護師を育成します。

2 令和5年度の教育目標と計画

目　標	重点目標 1. 目標とする資格取得のために、学生個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行い、合格率を上げる。 2. 看護における援助関係に必要なコミュニケーション能力を育むために、日常の気持ちのいい挨拶・相手を思いやる言葉掛けを励行する。 ・学生と教員および卒業生とのよりよい人間関係を構築する。 3. 自然災害・火災・感染症等の発生に備え、危機管理体制の見直しをする。 4. 適切な報告・連絡・相談を実践する。 5. 新カリキュラムを実施し、評価・修正を行っていく。 6. 魅力的な学校づくりに努め、地域社会に貢献するとともに学生増を図る。 ・退学者・休学者の減少
計　画	1. 資格試験に向けては担任を中心としてクラス指導・個別指導を行う。 2. 学内で学習のできやすい環境を提供する。 ・教室、図書室、パソコン室、ネット環境の開放およびPCの貸出をする。また、自由な時間帯での利用許可をする。 3. 学生の学習背景や健康、心情を理解するため個別面接をする。 ・教員はゆとりを持って、学生の健康を含めた丁寧な指導に当たる。 ・学生が相談しやすい環境の整備を行う。 4. 学校近隣、駐輪場、校内で登下校を見守り安全配慮を行う。 5. 自然災害・火災等に備え学校建物の安全点検および感染症の発生を防止できるようマニュアル等を作成し職員間で共有する。 6. 教員間では効率的で密な情報交換を行い、互いの意見を尊重しつつ調整を図る。 7. 新カリキュラムを実施し授業評価を行い、次年度に向けて検討する。 8. 支援金の周知・学校訪問の継続・進学ガイダンスへの参加継続・WEBでのオープンキャンパスの検討等募集方法を工夫し実践する。 9. 学生の現状から実施できるような内容を洗い出し、職員共々広く地域や地域住民との交流が図れるように努力する。

令和5年度学校評価 【自己評価】

（総括）

評価	A
目標達成状況	資格試験に向けて試験日直前まで懇切丁寧な指導が行われたが、全員合格には至らなかった。それまでの科目試験結果でも成績不良の学生も増加している。 気持ちの良い挨拶や言葉遣いは教員自らも留意し、学生への働きかけもできていた。今後も継続した取組が必要である。 本年度香川県シェイクアウト（県民いっせい地震防災行動訓練）に参加し、机の下に隠れたり、身をかがめるなどの「安全確保行動」を実施した。実施前には危機管理について説明を行った。 学生と教員間のコミュニケーションが図られ良い人間関係ができていた。 特に卒業生(同総会）とは情報交換や学生募集において連携が図られた。 教員・学生ともに速やかな報告・連絡・相談ができていたが、学生からの報告等が遅れることもあり、今後必要性を説明していく必要がある。 新カリキュラムを実施したが、大きな問題はなく経過した。 学生募集は積極的に行ったが、学生増にはつながらなかった。令和4年度に比較して看護科では休学者・退学者ともに減少した。准看護科では退学者が増加した。 昨年度よりご意見箱を設置し、学生・生徒の意見も参考にしながら、魅力的な学校づくりに努めた。
今後の課題・改善方法	資格試験全員合格を目指して、さらに学習の全体指導と個別指導を行う。 同時に学生のモチベーション維持に留意し、丁寧な関わりをする。 挨拶は改善できているので定着させる。言葉遣いについては、一部気になる部分もみられる為、今後も指導の継続が必要。 今後もシェイクアウトに参加し、危機管理について説明を継続する。また学生・生徒の安全確保行動を確認し、危機管理体制の見直しを行う。 正確で明瞭な報告・連絡・相談の方法を継続して指導する。 新カリキュラムを実施し、今後もPDCAサイクルを実施しながら評価・修正を行っていく。 学生の状況から実施できるような内容を洗い出し、職員共々広く地域や地域住民等との交流ができるように努力する。 ご意見箱を継続し、学生・生徒の意見を聞きながら今後も気力的な学校づくりに努める。

4　項目別自己評価結果【大項目ごとのまとめ】

＊評価項目は「一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会」発行のモデルを使用
＊評価ランクは　ＡＢＣＤ　の4段階とする

（1）教育理念・目的・育成人材像

評価	A
評価結果（総括）	社会のニーズに合った内容を取り入れて作成され、周知されている
取組状況とその分析	実習施設をはじめとする地域の医療福祉介護施設の意見を踏まえて作成され、学校の教育活動に反映させている
今後の改善方策等	社会の急激な変化に応じた中期的将来像を検討する

（2）学校運営

評価	A
評価結果（総括）	事業計画、組織運営、人事・給与制度は良く整っている
	教育理念に則って運営方針・事業計画が定められ業務の細部に生かされている
取組状況とその分析	各種運営規定を整備し、組織的に取り組んでいる
	関連官公庁および関連学校・実習施設との連携を密にし、状況に応じて指導助言を受け反映させている
今後の改善方策等	業務内容の洗い出しと分類・分担の見直しを行い効率的かつ遺漏の無い
	作業を行う
	毎年運営方針の見直しを行い、明文化する

（3）教育活動

評価	A
評価結果（総括）	おおむねできている
	授業評価が一部しかできていない
取組状況とその分析	履修に関する評価を適切に行い、資格取得に向けた指導に繋げている
	学生に対してアンケート調査等が実施できていない為、学生の
	声が反映されていない。
	授業評価は一部しかできていないが、外部講師も含めて実施を進めている
今後の改善方策等	日々の学習を大切にし、資格取得に向けた指導を強化する
	他校や地域の施設あるいは多職種との連携を図り、開かれた学習をする
	授業評価等アンケートを実施し、改善に役立てる。

(4)学修成果

評価	A
評価結果（総括）	免許取得率は令和5年度92.9%（全国平均87.8%、全国新卒平均93.2%）
	県内就職率は高率で横ばい
取組状況とその分析	就職活動支援を行い、県内就職率が上がるよう取り組んでいる。
	単位認定が得られるよう、日々の学習支援を行っている
今後の改善方策等	就業してからのキャリアアップに関する情報提供を行う
	資格試験合格率の向上

（5）学習支援

評価	A
評価結果（総括）	おおむねできている
	学習・就職・学校生活やプライベートな相談等、丁寧に対応している
取組状況とその分析	自己学習の場として設備を開放し、自己のスケジュールにあった学習ができる環境を提供している
	令和4年より支援制度開始し、公的な支援へのサポートも継続している
	卒業後のフォローは十分でない
今後の改善方策等	さらなる退学・休学者減少にむけた早目の指導

（6）教育環境

評価	B
評価結果（総括）	設備的な環境は整っており、安全点検できている
	保健医療介護分野以外での地域と連携が薄い
取組状況とその分析	教育充実に向けての整備に努め、遠隔授業やICT教育設備の充実ができた
	校外学習時間は少ない
	学内での防災訓練は行っているが、学外(地域)との防災連携が図れていない
今後の改善方策等	広く地域との関係を構築していく
	校外学習の位置づけ等を検討していく

（7）学生募集と受け入れ

評価	A
評価結果（総括）	学生募集に取り組んでいるが、受験者が減少した
	学費等必要経費については適切に周知している
	学校独自の経済的支援は制度の創設に取り組んでいる
取組状況とその分析	学生募集には必要な情報が提供でき、丁寧な対応ができている
	授業料・入学金については支援体制を整え実施
今後の改善方策等	家庭を持つ学生への支援対策を充実させる
	学生募集方法についてはさらに検討していく
	支援体制の実施状況確認、今後について検討
	本校高等課程准看護科との連携を強化し、学生へは進学を薦める

（8）財務

評価	A
評価結果（総括）	適切な予算決算となっており、事務処理も適切である
	学生数の減により運営状況は厳しい
	HPでの公表をしていない
取組状況とその分析	会計処理基準基づき適切に会計処理が行っている
	収支バランスが取れるよう支出配分している
今後の改善方策等	定員充足の維持向上
	会計処理は現状維持
	財務状況公開に向けての検討

(9)法令等の遵守

評価	B
評価結果（総括）	プライバシーポリシーを徹底し、個人情報保護ができている
	IT上のセキュリティおよび校内のセキュリティ管理ができている
	学校評価・自己評価を実施し、公表できている
取組状況とその分析	学校評価・自己評価を実施し、公表した
	PCのセキュリティ強化を図り、情報漏洩対策を図っている
	法令による関係省庁への連絡・報告はできている
	ハラスメントに関する規定(明文化)ができていない
今後の改善方策等	情報漏洩については継続して意識の高揚と管理を図る
	ハラスメントの規定を作成する
	自己評価・自己評価表の見直しと修正を行う

(10)社会貢献・地域貢献

評価	B
評価結果（総括）	施設の開放はできているが利用は少ない
	卒業生は82.2%が県内に就職しており、地域貢献できている
	勤労学生であり医療福祉介護の分野で貢献できている
取組状況とその分析	勤労学生であること、夜間の授業であること等により、地域との交流
	等の積極的な取り組みができていない
	地域の医療福祉介護分野で貢献できるよう、在学中の勤務先を紹介
	している
今後の改善方策等	学生・生徒の状況から、実施できるような内容を洗い出し、職員共々地域の
	団体との関係を開拓できるように努力する

(11) 総括

評価	B
評価結果（総括）	昨年度の評価を基に職員全員が評価・目標の共有が行えた
	教員は評価の目的を理解しているものの、全員が評価に携わることは
	できなかった
取組状況とその分析	日々の業務に追われているが、業務分掌を横断して協働しようとしている
	学生募集に知恵を出し、職員全体で取り組んだ
	自己評価・自己評価表の見直し、修正が必要
今後の改善方策等	自己評価・自己評価表を見直し、修正し職員に周知する
	できていないマニュアルを作成し、体制を整える

令和6年度の教育目標と計画

1　教育理念、目的

教育理念	生命の尊厳と人間尊重を基本理念として、人と社会を愛する豊かな人間性を育み、地域住民の健康生活に貢献できる有能な看護実践者を育成します。
教育目的	生命の尊厳と人間尊重を基盤とした豊かな人格と教養を身に付け、社会の要請に応えられる看護の専門職業人として基礎的知識・技術・態度を修得し、保健・医療・福祉の一員として科学的根拠に基づいた安全な看護を実践する看護師・准看護師を育成します。

2　令和5年度の教育目標と計画

目標	重点目標 1. 目標とする資格取得のために、学生個々の能力に応じたきめ細やかな指導を行い、合格率を上げる。 2. 看護における援助関係に必要なコミュニケーション能力を育むために、日常の気持ちのいい挨拶・相手を思いやる言葉掛けを励行する。 ・学生と教員および卒業生とのよりよい人間関係を構築する。 3. 自然災害・火災・感染症等の発生に備え、地震防災行動訓練に参加し危機管理体制の見直しをする。 4. 自己点検・自己評価表の見直しと修正を行う。 5. 新カリキュラムを実施し、PDCAサイクルを実施しながら評価・修正を行っていく。 6. 魅力的な学校づくりに努め、地域社会に貢献するとともに学生増を図る。 ・退学者・休学者の減少　・群市医師会立准看護学院との連携・協力
計画	1. 資格試験に向けては担任を中心としてクラス指導・個別指導を行う。 2. 学内で学習のできやすい環境を提供する。 ・教室、図書室、パソコン室、ネット環境の開放およびPCの貸出をする。 また、自由な時間帯での利用許可をする。 3. 学生の学習背景や健康、心情を理解するため個別面接をする。 ・教員はゆとりを持って、学生の健康を含めた丁寧な指導に当たる。 ・学生が相談しやすい環境の整備を行う 4. 自然災害・火災等に備え、シェイクアウトに参加し、危機管理について説明を行う。また学生・生徒の安全確保行動を確認し、危機管理体制の見直しを行う。 5. 自己点検・自己評価表を見直し、修正を行い職員に周知する。 6. 新カリキュラムを実施し、授業評価を行い次年度に向けて検討する。 7. 支援金の周知・学校訪問の継続・進学ガイダンスへの参加継続・WEBでのオープンキャンパスの検討等募集方法を工夫し実践する。 8. 学生の現状から実施できるような内容を洗い出し、職員共々広く地域や地域住民との交流が図れるように努力する。（スポGOMI大会への参加を検討） 9. 准看護学院運営検討会に参加し、県下の准看護学院で協力して行えることを検討していく。